

於東海道鈴川  
河合橋際其一



東海道鈴川河合橋際其一

2 富士山二十四景

一帖

玄鹿館

明治二十八年(一八九五)頃

プラチナプリント

各三〇×二六・八

富士山は十九世紀に發明された写真の世界においても、早くから被写体とされてきた。とりわけ幕末から明治期には、日本の風景・風俗写真に手彩色を加えた「横浜写真」が海外への土産物として人気を博しており、日本の象徴たる富士の姿は日本人・外国人を問わず、多くの写真家たちのカメラに収められた。

本作に収録された計二十四枚の写真は、富士山を望む景色を様々な場所から撮影したものである。画面近景には河海や樹木、人馬や帆掛舟、家屋などが配されており、主題でありながら自然物や人々の暮らしの中に溶け込む富士の姿が表されている。このような構図は横浜写真にもしばしば見られるが、木々を大胆に配置する画面構成や、プラチナプリント特有の深みある豊かな階調によって木々や雲などの質感を巧みに捉える表現からは、美術的な写真として富士山を写し出そうとする撮影者の意図が垣間見える。

制作を担った玄鹿館は、明治二十八年(一八九五)に「写真大尽」として有名な鹿島清兵衛(一八六六～一九二四)が木挽町(現在の中央区銀座)に設立し、弟の清三郎(生没年不詳)が館主を務めた写真館である。





於  
駿州靜浦  
其一

駿州靜浦其一



於  
相州乙女嶺

相州乙女嶺



於  
東海道柏原沼邊

東海道柏原沼邊



於  
駿州靜浦  
其二

駿州靜浦其二



於  
東海道富士川橋上

東海道富士川橋上



於  
東海道加島郷

東海道加島郷





甲州精進湖畔其一



東海道富士川



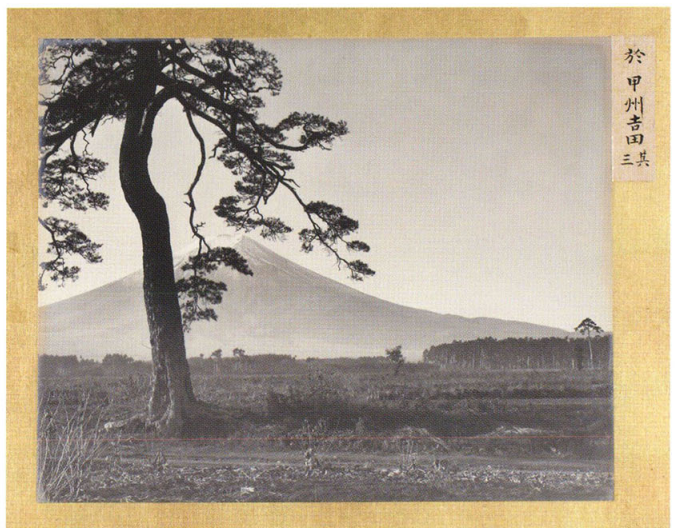
甲州吉田其一



甲州精進湖畔其三



東海道興津海岸



甲州吉田其三

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社アイワード  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan